

平成18年度当初予算発表資料概要

目次

1 安全で安心な「すみだ」づくり

- (1) 地域防犯リーダーの養成
- (2) 危機情報等のメール配信
- (3) 小中学校、幼稚園での児童・生徒の安全対策
- (4) 地域安全マップづくり
- (5) 地域防災行動力向上対策事業
- (6) 水防対策事業の実施
- (7) 新防災対策の推進
- (8) 共同住宅耐震強度不安の解消への取り組み
- (9) 墨田区都市計画マスタープランの改定
- (10) 押上・業平橋駅周辺地区の整備/北十間川水辺活用構想の策定
- (11) 曳舟駅周辺地区の整備―①曳舟駅前地区再開発―
―②京成曳舟駅前東地区再開発―

2 子どもたちが健やかに育つ「すみだ」づくり

- (1) 子どもの医療費の助成対象範囲拡大
- (2) 南部地区への保育園新設
- (3) 子育て支援総合センターの整備
- (4) 認証保育所保育料負担軽減制度
- (5) 学校支援指導員の全校配置
- (6) 小中学校のトイレの洋式化

3 環境にやさしい「すみだ」づくり

- (1) 「すみだ環境基本計画」の策定
- (2) 資源回収システムの見直し/粗大ごみの日曜収集
- (3) 路上喫煙防止対策事業

4 人が集まり活気あふれる「すみだ」づくり

- (1) 観光案内所の開設
- (2) ピーター・モース・コレクションの出版と北斎ハンドブック改訂版の作成
- (3) 墨堤の桜の保全・創出事業
- (4) 旧安田庭園再整備事業
- (5) ものづくり企業若者就職サポート事業
- (6) フロンティア人材育成支援事業
- (7) 「商業活性化すみだプログラム」の策定
- (8) 産学官連携事業の推進
- (9) 「すみだ新ものづくりフェア2006」の開催

5 区民がいきいきとすごせる「すみだ」づくり

- (1) 新たな基本計画の策定
- (2) 協治（ガバナンス）の仕組みづくり
- (3) 第3日曜日の庁舎窓口開庁
- (4) 総合型地域スポーツクラブの設立支援
- (5) 広げよう・つなげよう すみだ健康フェスティバルの開催
- (6) 区民健康体操の開催・普及

1 安全で安心な「すみだ」づくり

件名	地域防犯リーダーの養成
予算額	624千円
主旨	<p>近年、重大事件や凶悪犯罪が相次いで発生し、治安の悪化が大きな社会問題となっている。墨田区では、地域での防犯活動に区民と協働で取り組んできた結果、犯罪件数が減少するなど一定の成果を収めているが、依然として、ひったくり等の街頭犯罪の発生は後を絶たず、今後も対策の強化が求められている。</p> <p>また、今年1月1日に施行された「墨田区安全で安心なまちづくり推進条例」には、「自らの地域は自らで守る」という理念のもと、区民自らが地域における防犯に努めることが盛り込まれている。</p> <p>このため、地域防犯力の向上を図ることを目的として、地域における防犯活動の核となるリーダーを養成する。</p>

1 - (1)

件名	危機情報等のメール配信
予算額	4,948千円
主旨	<p>集中豪雨・台風・地震などの自然災害や不審者の出没などの犯罪・事件が発生した際に、区民に対する迅速かつ正確な情報伝達を行うための対応が求められている。</p> <p>このため、携帯電話やパソコンのメール機能を活用し、あらかじめ登録した区民に防災・防犯情報をメール配信する。</p> <p>また、近年、子どもを狙った犯罪・事件が多発していることから、子どもの安全を守るため、区立小・中学校や幼稚園から保護者に対して犯罪発生情報等をメール配信する。</p>

1 - (2)

件名	小中学校、幼稚園での児童・生徒の安全対策
予算額	93,112千円
主旨	<p>校内や園内に接近あるいは侵入しようとする不審者から子どもたちを守るため、区立全小・中学校、幼稚園に、監視用の防犯カメラとモニターを設置する。また、より一層、子どもたちの安全・安心を確保し良好な教育環境を保持するために、校門等に電子錠を設置する。</p>

1 - (3)

件名	地域安全マップづくり
予算額	1,748千円
主旨	<p>全国的に小学生を狙った凶悪犯罪が多発していることから、登下校を中心とした子どもたちの安全確保を図ることは喫緊の課題となっている。</p> <p>今後は、関係団体や関係機関との緊密な連携のもと、地域ぐるみの学校安全体制の充実を図ることが重要であるが、一方、子ども自身にも危険予測・回避の実践的な資質・能力を身につけさせ「自分の身は自分で守る」ことができるようにする必要がある。</p> <p>このため新たに「地域安全マップ」づくりを教育課程に位置付け、全区立小学校で取り組むことによって児童自身の危険予測・回避能力を向上させ、犯罪被害の未然防止を図る。</p>

1 - (4)

件名	地域防災行動力向上対策事業
予算額	1,232千円
主旨	<p>地震等の災害に備えるためには、自分たちのまちは自分たちで守るという区民や事業者の意識向上と、災害発生時の初動態勢における防災行動力を高めておく必要がある。しかし、現在の活動主体は町会・自治会の役員など比較的高齢者が中心となっており、これからはより幅広い世代や事業者を活動主体として位置づける必要がある。</p> <p>このため、地域に潜在している防災行動力を掘り起こして活用することを目的に、「中学生向け副読本」及び「企業向けガイドブック」を作成する。</p>

1 - (5)

件名	水防対策事業の実施
予算額	25,480千円
主旨	<p>昨年アメリカ南部を襲ったハリケーンや東京都西部に床上・床下浸水などの大災害をもたらした大雨など、近年、短時間に記録的な大雨が降ったことによる都市型水害や台風による水害が頻発している。墨田区においても、いつ何時このような水害に見舞われるか予想が付かない状況にあり、従前にも増して洪水や都市型水害に即応できる態勢を整え、災害発生の際は被害を最小限にとどめる必要がある。</p> <p>このため、区民や事業所に、水害に対する日ごろの備えの必要性について意識を高めてもらうとともに、洪水発生時の避難方法等を周知することを目的として洪水ハザードマップを作成・配布する。</p> <p>また、資器材についても充実を図る。</p>

1 - (6)

件名	新防災対策の推進
予算額	58,591千円
主旨	<p>近年の大地震における被害実態を見ると、火災よりも家屋倒壊、家具転倒によるものが多かったため、墨田区では平成17年度から新防災対策を実施している。生活空間の安全確保事業として、「生活空間安全チェックシート」の全世帯配布、高齢者や心身障害者を対象にした家具転倒防止器具設置助成を実施したほか、地震被害の軽減を目的として木造住宅に関する「耐震相談」から「耐震改修工事助成」までの一連の耐震化推進事業を実施した。</p> <p>平成18年度も引き続きこれらの事業を実施することとし、昨年配布した「生活空間安全チェックシート」を町会・自治会の防災訓練等で活用するほか、平成17年度に引き続き、家具転倒防止器具設置助成と木造住宅の耐震化推進事業を実施する。</p>

1-(7)

件名	共同住宅耐震強度不安の解消への取組み
予算額	211,082千円
主旨	<p>構造計算書が偽装され著しく耐震強度の低いマンションが建築された事件をうけて、今回の事件の対象となっていない区内の一般共同住宅の居住者から、自分たちの住居の強度に対する不安が提起されている。そこで、新たに耐震診断の確認に要する費用の一部を助成する事業を開始する。</p> <p>また、今回の事件の対象となったマンションに対しては、平成17年度に引き続いて、居住者への支援策を講ずるとともに、近隣住民の安全・安心の確保を図る。</p>

1-(8)

件名	墨田区都市計画マスタープランの改定
予算額	15,600千円
主旨	<p>現在の都市計画マスタープランは、墨田区の2020年の都市像を描くことを目的として平成10年3月に策定した。このマスタープランに基づき主要推進プロジェクトが進められ、一定の成果を収めている。</p> <p>一方、墨田区を取り巻く社会環境が大きく変化したことを受け、昨年11月に、新たな墨田区基本構想を策定した。</p> <p>このため、新基本構想と都市計画マスタープランの整合性を図る必要性が生じたことから、マスタープランを改定することとする。策定にあたっては、基本構想に掲げている協治（ガバナンス）の理念を踏まえ、区民とのワークショップや地域別懇談会等により幅広く意見を求めながら、基本構想が描くまちの将来像の実現を目指す。</p>

1 - (9)

件名	押上・業平橋駅周辺地区の整備/北十間川水辺活用構想の策定
予算額	24,011千円
主旨	<p>押上・業平橋駅周辺地区は、平成15年3月に地下鉄11号線の延伸による東武伊勢崎線相互乗り入れが実現し、交通結節点としての機能が更に強化された。今後は、区の中心部にふさわしい商業・業務・文化・住宅等の複合施設による広域拠点として整備を促進することが求められている。</p> <p>このため、土地区画整理事業により交通広場や道路等の都市基盤施設の整備を進め、区の中心部にふさわしい広域拠点としてのまちづくりを推進していく。</p> <p>また、押上・業平橋駅周辺地区に隣接する北十間川の水辺活用構想を策定する。</p>

1 - (10)

件名	<p style="text-align: center;">曳舟駅周辺地区の整備 －①曳舟駅前地区再開発－</p>
予算額	<p style="text-align: center;">212,600千円</p>
<p style="text-align: center;">主 旨</p> <p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>曳舟駅前地区では、交通の利便性を生かした都市型住宅の建設や地域の商業集積の核となる大型商業施設の建設を計画している。</p>	

1－(11)

件名	<p style="text-align: center;">曳舟駅周辺地区の整備 －②京成曳舟駅前東地区再開発－</p>
予算額	<p style="text-align: center;">543,265千円</p>
<p style="text-align: center;">主 旨</p> <p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>京成曳舟駅前東地区では、地域の実情に合わせた再開発を段階的に進めるため、地区を第一・第二・第三の3つに分けて事業を進めている。当地区においても、商業・業務・都市型住宅の配置を計画している。</p>	

1－(11)

2 子どもたちが健やかに育つ「すみだ」づくり

件名	子どもの医療費の助成対象範囲拡大
予算額	583,419千円
主旨	<p>少子化が進み、安心して子育てができるしくみづくりが急がれている。現在、就学前までの乳幼児の保険診療にかかる医療費自己負担分については、所得制限なしで無料化しているが、子育て家庭の経済的負担のさらなる軽減と子育てしやすい環境づくりを進めるために、医療費の助成範囲を拡大し無料化する。</p>

2-(1)

件名	南部地区への保育園新設
予算額	225,577千円
主旨	<p>次代を担う子どもを安心して産み育て、少子化の進展に歯止めをかけるために、子どもが心身ともに健やかに育つ環境を整備することが強く求められている。</p> <p>平成17年4月1日現在、墨田区では195名が保育園の入所待機児童となっており、その約6割が区南部地区在住である。そこで、保育需要に対応し、多様な保育サービスを提供するため、区南部地区に民設民営方式の保育園を1園新設する（平成19年4月開園予定）。</p>

2-(2)

件名	子育て支援総合センターの整備
予算額	49,301千円
主旨	<p>墨田区では、将来を担う子どもたちが健やかに生まれ育つことができる地域づくりを目指し、平成16年度に「すみだ子育て・子育て応援宣言“墨田区次世代育成支援行動計画”」を策定した。</p> <p>この計画に基づき、すべての子育て家庭を支援することを目的として、本区の子育て支援の拠点となる「子育て支援総合センター」を京成曳舟駅前東第一地区に建設する（平成19年4月開所予定）。</p> <p>なお、平成18年度は、施設の開設に先駆けて「病後児保育サービス利用助成」を実施する。</p>

2- (3)

件名	認証保育所保育料負担軽減制度
予算額	30,120千円
主旨	<p>保育に関する様々なニーズに柔軟に対応するため、区では、民間活力を活かした認証保育所の誘致を図ってきたが、利用料金については認可保育所保育料と比較して高いことから、家計に大きな負担となっている。そこで、保育サービス利用者間の公平性という観点から保育料の軽減を図るため認証保育所利用料の一部を助成する。</p>

2- (4)

件名	学校支援指導員の全校配置
予算額	35,500千円
主旨	<p>確かな学力をはぐくむためには、学習環境の整備・充実を図ることが重要だが、昨今は学習指導と生徒指導の両面で個別指導が必要な場合があり、学校ではその対応に苦慮している。このため、平成12年度から小学校を対象に学校の活性化と学習支援をねらいとして「若手指導員」を、また平成16年度から生徒指導への対応をねらいとして小中学校に「派遣指導員」を配置している。これらをより一層効果的なものとするため、現在の指導員派遣制度を統合・充実させ、将来教員を目指している学生など教育に高い情熱をもつ人を「学校支援指導員」として区立全小・中学校に配置し、学習指導、生徒指導の両面で学校の抱える課題に臨機応変に対応する体制を構築する。</p>

2-(5)

件名	小中学校のトイレの洋式化
予算額	70,110千円
主旨	<p>生活様式等の変化に伴い、和式トイレを使用できない児童・生徒の増加や体に障害のある児童・生徒への対応という観点から、洋式トイレの設置に対する要望が保護者等から強く寄せられている。ここで、区立小中学校の各階に洋式トイレが男女各2個になるように設置し、児童・生徒のための良好な教育環境の維持・確保を図る。</p>

2-(6)

3 環境にやさしい「すみだ」づくり

件名	「すみだ環境基本計画」の策定
予算額	9,000千円
主旨	<p>墨田区では平成17年12月、環境に関わる諸施策を総合的・計画的に推進することを目的に、区民・事業者・行政の責務、役割分担、施策の方向性を明らかにした「すみだ環境基本条例」を制定した。</p> <p>平成18年度は、本条例の理念である「環境の共創」に関する施策を中長期的な視点から総合的・計画的に推進するため、区民等の参加を得て「すみだ環境基本計画」を策定する。</p>

3- (1)

件名	資源回収システムの見直し/粗大ごみの日曜収集
予算額	193,166千円
主旨	<p>墨田区では資源回収システムの導入により多くの実績を上げてきたが、現行のシステムは品目によって回収場所、拠点数、回収頻度がまちまちであるため分かりにくいという区民の声が調査等で寄せられた。</p> <p>このため、現行の資源回収システムを見直し分かりやすく全ての区民が利用しやすい新たな資源回収システムを構築する。</p> <p>また、粗大ごみの収集については、日曜収集実施に対する要望が多いことから、日曜日の粗大ごみ収集や持込みの受入れを行う。</p>

3- (2)

件名	路上喫煙防止対策事業
予算額	40,877千円
主旨	<p>路上喫煙・たばこのポイ捨て防止については、「すみだ やさしいまち宣言」に基づく啓発活動の展開により一定の成果を収めてきたが、通勤者など多くの人を訪れる駅周辺などでは、従来の活動だけでは限界が指摘されていた。このため、路上喫煙による火傷等の被害の発生や吸殻の散乱を防止することを目的として、平成17年12月に「墨田区路上喫煙等禁止条例」を制定した。この条例が平成18年4月1日に施行されることから区民や事業者、関係行政機関との連携を図りながら、吸殻のポイ捨てや路上喫煙防止等の啓発推進となる諸施策を展開し、公共の場所における安全性の向上や美化の促進に努め、快適な地域環境の確保を目指す。</p>

3- (3)

4 人が集まり活気あふれる「すみだ」づくり

件名	観光案内所の開設
予算額	13,350千円
主旨	<p>墨田区では、都市の魅力を戦略的にアピールし、賑わいの創出と地域の活性化を図るため、街と一体となった「歩いて楽しい」都市型観光の展開を中心に位置付ける「墨田区観光振興プラン」を平成16年に策定した。この計画に基づき、すみだを訪れた人たちが快適に過ごせるための仕組みづくりの一つとして、街歩き観光の拠点となる主要な駅周辺に観光案内所を設置する。</p>

4- (1)

件名	ピーター・モース・コレクションの出版と 北斎ハンドブック改訂版の作成
予算額	10,034千円
主旨	<p>墨田区では、本区とゆかりの深い葛飾北斎の作品を展示するため「墨田区北斎館」（仮称）の建設を計画し、北斎作品の収集を進めている。区が所蔵する北斎作品の中には、アメリカの浮世絵研究の第一人者である故ピーター・モース氏（1935～1993年）の貴重なコレクション（内北斎作品は約600点）が含まれているが、これまで同コレクションの図録がなかったために、展覧会以外で作品の紹介をすることができなかった。そこで3年計画により「ピーター・モース・コレクション」の図録を出版する。図録は、広く北斎の作品を紹介すると同時に、展覧会等の図録として活用する。</p> <p>また、本区ゆかりの北斎を多くの方に知ってもらうため、平成18年度中にハンドブック「葛飾北斎」（平成7年初版）の改訂版を作成し発行する。新たな内容として、“街歩き「北斎ギャラリー」”や区内の北斎ゆかりの地などを紹介し内容の充実を図って「北斎のまち すみだ」を積極的にPRしていく。</p>

4- (2)

件名	墨堤の桜の保全・創出事業
予算額	108,297千円
主旨	<p>隅田公園の桜は、江戸幕府八代将軍吉宗が隅田川沿いに植えたのが始まりとされており、多くの人々が訪れる「花見の名所」となっている。</p> <p>この墨堤の桜は最後の植栽から36年が経過し、桜の枝は互いに日当りを求めて重なり合い、表土が流失して土壌が固くなる等、生育環境が悪化して一部の桜に衰弱が見られるようになった。</p> <p>このため、平成15年度は学識経験者、区民、地元公園愛護会等で構成された検討委員会によって隅田公園の将来像を検討し、長期構想を策定した。この構想に基づき、平成16年度から4ヵ年計画で桜の保全・創出事業を実施している。</p> <p>平成18年度は、品種の異なる新たな桜の植栽を行うが、その植栽費用等については、古くから地元の人々が協議を重ね、協力しながら桜を植えてきたという歴史をふまえ、区民をはじめ広く一般からの寄付を募集する。</p>

4- (3)

件名	旧安田庭園再整備事業
予算額	22,000千円
主旨	<p>旧安田庭園は、人工的に潮入りを再現した回遊式庭園として両国地区の重要な観光拠点となっており、平成8年3月に東京都文化財の「名勝」に指定されている。</p> <p>しかし、昭和46年の大改修工事から34年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。このため園内の整備を行い、文化財庭園としてさらなる活用を図ることとする。</p> <p>平成17年度に学識経験者を中心とした検討委員会で同園の整備内容を検討しており、この結果に基づいて平成18年度から3箇年で「旧安田庭園再整備事業」を実施する。</p>

4- (4)

件名	ものづくり企業若者就職サポート事業
予算額	10,500千円
主旨	<p>区内の中小製造業をはじめとしたものづくり企業においても、2007年問題と呼ばれる団塊の世代の大量定年時代を迎え、若手従業員の確保が重要な課題となっている。一方、若年者で定職に就かないフリーター等の増加が社会問題となっている。この需給ギャップを埋めるとともに、より多くの若者が区内のものづくり企業等に就職できるよう様々な支援策を実施する。</p>

4- (5)

件名	フロンティア人材育成支援事業
予算額	8,857千円
主旨	<p>墨田区では平成15年度に、「中小企業のまちすみだ新生プラン」を策定し、明日のすみだの産業を担う「フロンティア人材」の育成に取り組んできた。今後、団塊世代の大量退職とともに生産者人口の減少を迎える中、区内中小企業の次世代を担う後継者・若手企業人の育成や技術・技能を有するシニア人材が活躍する場の創出等が求められている。</p> <p>そこで、平成18年度は、従来の取り組みに加え、新たなフロンティア人材育成支援事業を実施し、ものづくりのまちすみだの更なる発展と区内産業全体の活性化を図る。</p>

4- (6)

件名	「商業活性化すみだプログラム」の策定
予算額	10,780千円
主旨	<p>区内商店街は、消費者ニーズの変化や大型店・新業態店の進出等により商業環境が大きく変化する中で、後継者不足や転廃業の増加、空き店舗の増加など厳しい状況に置かれている。一方、都市型観光の展開や区内各地域で進められている拠点整備において、商業の果たすべき役割は、ますます高まっている。そこで、各商店街のそれぞれの特性を生かした、ソフト・ハード両面にわたる商業活性化プログラムを策定する。</p>

4- (7)

件名	産学官連携事業の推進
予算額	33,010千円
主旨	<p>平成14年12月、墨田区は早稲田大学との間で、幅広い分野での連携を目的とした全国初の「包括的事業連携協定」を締結した。4年目を迎える平成18年度は、同協定の趣旨実現に向け「産業振興」「まちづくり」「ひとづくり」など各方面で展開したこれまでの成果を踏まえ、より一層の事業内容の拡充と新規事業への取り組みを行う。</p> <p>また、早稲田大学以外の大学及び研究機関等との連携も模索していく。</p>

4- (8)

件名	「すみだ新ものづくりフェア2006」の開催
予算額	13,000千円
主旨	<p>区内の中小企業の経営・技術・取引の改善と勤労者や区民の福利厚生のための施設「すみだ中小企業センター」が平成18年度に開館20周年を迎える。そこで、これを記念し、ものづくりへの新たな取り組みを広く区の内外に向けて発信するため、平成18年11月、「すみだ新ものづくりフェア2006」（仮称）を開催する。</p>

4- (9)

5 区民がいきいきとすごせる「すみだ」づくり

件名	新たな基本計画の策定
予算額	10,720千円
主旨	<p>平成17年11月、墨田区の将来ビジョンを示す新たな基本構想を策定したことを踏まえ、新基本構想を実現するための設計図として、平成18年度を初年度とした10か年の新基本計画を策定する。</p> <p>新基本計画には、成果重視の行政運営を行うために、施策体系ごとに行政評価（施策評価）システムを導入する。</p>

5- (1)

件名	協治（ガバナンス）の仕組みづくり
予算額	11,157千円
主旨	<p>区民と区がともに力を合わせ、魅力や活力あふれる「すみだ」の未来をつくっていくためには、これまで以上に区政への区民参画や協働を進め、地域の自治を確立していく必要がある。</p> <p>このため、区民参画の具体的方策や区民と区との協働のあり方などについて調査・研究を行い、協治(ガバナンス)の仕組みづくりに取り組む。</p>

5- (2)

件名	第3日曜日の庁舎窓口開庁
予算額	4,169千円
主旨	<p>核家族化の進展や女性の社会進出など著しい社会状況の変化に伴い、平日は仕事のためなどの理由により、区役所に行くことができない区民が増えている。</p> <p>そこで、区役所の窓口業務の中でも区民生活に最もかかわりの深い転入・転出届や証明書の発行等の手続きを中心として休日の窓口開設を行い、平日や夜間延長窓口に来庁できない区民への行政サービス向上を図る。</p>

5- (3)

件名	総合型地域スポーツクラブの設立支援
予算額	3,617千円
主旨	<p>地域住民のコミュニティの推進と健康増進を図るために、地域住民の自主運営を基本として様々なスポーツを愛する人々で構成する「総合型地域スポーツクラブ」の設立を支援する。</p> <p>平成18年度は新たに両国中学校地区での設立を目指すとともに、平成17年度に第1号として設立された「スポーツドアあすま」の活動を支援していく。</p> <p>また、両スポーツクラブの活動状況をみながら、他の学校地区への展開を目指していく。</p>

5- (4)

件名	広げよう・つなげよう すみだ健康フェスティバルの開催
予算額	558千円
主旨	<p>墨田区では、平成18年3月に策定予定の「区民の健康づくり総合計画」に基づいて、健康で生きがいのある区民生活の実現に向けて様々な取り組みを行うこととしている。</p> <p>平成18年度は、この計画のPRを行うとともに、健康づくりへの関心や意欲を高めることを目的として、「広げよう・つなげよう すみだ健康フェスティバル」を開催する。</p>

5- (5)

件名	区民健康体操の開発・普及
予算額	1,000千円
主旨	<p>墨田区では、平成18年3月に策定予定の「区民の健康づくり総合計画」に基づいて、健康で生きがいのある区民生活の実現に向けて様々な取り組みを行うこととしている。</p> <p>その一環として、運動習慣のきっかけづくりとなる「区民健康体操」を開発し、これを普及させることで区民の自主的な健康づくりを推進していく。</p>

5- (6)